

新人生へ

学修案内

FMA

FMI

FMR

履修案内

UNIPA
WebClass

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

第3章 履修案内

1 皆さんへの情報伝達・連絡の方法

皆さんへの告示、通知、呼出しなどは、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA(以下、UNIPA(ユニパ))で「掲示」します。「掲示」とは、UNIPAの閲覧システムに表示される通知や連絡のことです。

授業の休講・補講、教室の臨時変更などの連絡をはじめ、履修登録(受講する科目の選択)や成績の発表、学生生活に必要な情報など、あらゆる連絡・手続きの手段としてUNIPAを利用します。

自分で責任を持って、必ず毎日複数回UNIPAを確認し、見落としや手続き漏れが生じないように注意して、充実した学生生活を送ってください。

UNIPAに関しては、P.57「学生ポータルサイト「DENDAI-UNIPA」操作マニュアル」で詳しく案内していますので確認してください。



UNIPA 画面

2 履修登録

授業科目配当表、時間割表をもとに研究指導教員に確認のうえ、指示された方法に従い、履修登録を行ってください。履修登録をしていない科目（無届科目）の受講・受験は許されません。また、単位の認定も行われません。

履修登録の変更、追加は履修登録期間中、履修登録確認及び修正期間中に UNIPA で行ってください。履修登録の詳細（方法や期間）は、掲示等で案内します。

3 履修することができる授業科目

履修登録をすることにより、次の授業科目を履修することができます。

① 自分の所属する専攻の授業科目

② 他の専攻の授業科目

研究指導教員が教育研究の指導上必要と認めるときは、自分の所属専攻に配当されていない本学大学院の他専攻（工学研究科・理工学研究科・情報環境学研究科の専攻も含む）の授業科目を履修することができます。

科目数の制限はありませんが、修了要件単位に算入することのできる単位は「特例扱いの科目（他大学院科目等）」と合わせて 10 単位までです。

③ 豊かな教養科目

未来科学研究科では以下の科目を 3 専攻共通の「豊かな教養科目」として開講しています。

- 建築学専攻…「デジタル放送論」「セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法」「IT とビジネスモデル A」「IT とビジネスモデル B」
- 情報メディア学専攻…「安全建築都市システム論」「IT とビジネスモデル A」「IT とビジネスモデル B」
- ロボット・メカトロニクス学専攻…「安全建築都市システム論」「デジタル放送論」「セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法」

なお、ロボット・メカトロニクス学専攻においては「豊かな教養科目」より 2 単位以上修得することが修了要件の 1 つとなっていますので、注意してください。

④ 特例扱い

以下のものについては、所定の要件を充たせば本学で履修したものと同様に扱われます。他専攻の授業科目と合わせて 10 単位を上限として、修了要件に算入できます。研究指導

教員と相談のうえ、東京千住キャンパス事務部（教務担当）で手続きを行い、未来科学研究科委員長の承認を得る必要があります。詳細は大学院学則第 16 条～第 18 条を参照してください。

- (1) 他大学の大学院（東京理工系 4 大学・首都大学院コンソーシアム）または外国の大学院において履修した授業科目
- (2) 入学前の既修得単位
- (3) 他の大学院または研究所等における研究指導

4 他大学院との単位互換協定に基づく 授業科目履修の扱い

未来科学研究科では、大学間の学術交流を通じて大学院における教育・研究活動のより一層の充実を図るため、首都大学院コンソーシアム、東京理工系 4 大学と単位互換協定を結んでいます。

本協定により、希望者は所定の手続きをとることにより、各大学院の授業科目を受講することができます。これにより取得した単位は、本学未来科学研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その取得した単位のうち 10 単位を超えない範囲で、未来科学研究科における授業科目の履修により取得したものとしてみなされます（大学院学則第 16 条）。この協定に基づく履修手続きの詳細は掲示によりお知らせします。科目によっては、有料となる場合があります。

協定大学

- ・ 首都大学院コンソーシアム大学
共立女子大学、順天堂大学、専修大学、玉川大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学
- ・ 東京理工系 4 大学
東京都市大学（旧：武蔵工業大学）、工学院大学、芝浦工業大学

5 昼夜開講制の実施

未来科学研究科では「昼夜開講制」を実施しています。具体的には、授業科目によっては昼間 4 時制限の時間帯に加え夜間 D 5 時限（18：10～19：40）、D 6 時限（19：50～21：30）の時間帯を設けています。

6 授 業

① 授業科目・単位等

各専攻に開講されている授業科目及び単位数は「授業科目配当表」に掲載されている通りです。

② 学 期

前 期 4月1日～9月上旬まで

後 期 9月上旬～翌年3月31日まで

詳細はその年の学事日程を確認してください。

③ 授業時間

月曜日～金曜日				土曜日			
大 学 院		工学部 未来科学部 システムデザイン工学部		工学部第二部		左記の全所属	
1限	9:20～11:00	1限	9:20～11:00			N1限	9:00～10:30
休憩		休憩				N2限	10:40～12:10
2限	11:10～12:50	2限	11:10～12:50			昼休	
昼休		昼休				N3限	13:10～14:40
3限	13:40～15:20	3限	13:40～15:20			休憩	
休憩		休憩				N4限	14:50～16:20
4限	15:30～17:10	4限	15:30～17:10			休憩	
休憩		休憩				N5限	16:30～18:00
D5限	18:00～19:40	5限	17:20～19:00			休憩	
休憩						N6限	18:10～19:40
D6限	19:50～21:30					休憩	
						N7限	19:50～21:20
						休憩	

④ 休講・補講・集中講義

(1) 休講

学校行事を行う場合、科目担当教員の都合等で授業が休講になる場合は、掲示等で知らせます。

(2) 補講

授業回数が不足した場合には、補講を行います。補講の有無は科目担当教員によって指示され、日程は授業や掲示等により連絡します。

(3) 集中講義

授業科目によっては、授業期間外に集中して授業を行うことがあります。
 なお、詳細な日程については、決まり次第、掲示等で連絡します。

⑤ 交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について

交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置については原則、下記のとおり
 の対応となりますが、緊急事態の発生状況により別途授業措置が行われる場合があります。
 この授業措置については、大学発表の大学ホームページ及びポータルサイトにて周知しま
 す。また授業開始以後に発令された場合には、学内放送等でも最新情報を発信しますので
 注意してください。

(1) 交通機関がストライキ等により運休の場合

首都圏JR各線及び東京千住キャンパス最寄駅（北千住駅・京成関屋駅）に乗り入れる
 私鉄・地下鉄各線がストライキ等により運休と報道された場合の授業の取扱いは、次のと
 おりです。

- 1) 午前6時において運休が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。
 - 2) 午前6時において運休の場合は、第1・2時限目の授業は休講となります。
 - 3) 午前9時において運休の場合は、第3・4時限目の授業は休講となります。
 - 4) 午後3時において運休の場合は、第D5・D6時限目の授業は休講となります。
- ※その他の私鉄のみがストライキ等により運休のときは、平常通り授業を行います。

(2) 台風等による暴風警報が発令された場合

東京23区に暴風警報が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

- 1) 午前6時において暴風警報が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。
- 2) 午前6時において暴風警報が発令されている場合は、第1・2時限目の授業は休講
 となります。
- 3) 午前9時において暴風警報が発令されている場合は、第3・4時限目の授業は休講
 となります。
- 4) 午後3時において暴風警報が発令されている場合は、第D5・D6時限目の授業は
 休講となります。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化する
 ことがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を
 必ず確認してください。

また、授業開始以後に暴風警報が発令された場合は、学内放送、大学ホームページ及び
 ポータルサイトで授業措置の情報を発信します。

- (3) その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。その場合には、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自確認してください。

7 シラバス（講義要目）

シラバスには、科目名、配当学年、配当期、単位数、必選区分、担当者名、目的概要、達成目標、関連科目、教科書名、評価方法、テーマ・内容、オフィスアワー、履修上の注意等の授業科目に関する情報が掲載されています。

しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成するとともに、常時確認することにより確実に知識を積み重ねていってください。

なお、シラバスは UNIPA にて閲覧できます。

8 学力考査及び成績評価

① 学力考査

学力考査は、原則としてその授業の終了する学期末あるいは、学年末に行われます。授業科目によっては、平常の成績またはレポート、口頭試問等をもって学力考査に代えることがあります。

なお、学力考査は履修登録した授業科目以外受験することはできません。

② 成績評価

成績は S・A・B・C 及び D の評価で表記されます。

成績評価は次の評点に対応します。

合否	評点	成績評価	GPA ポイント
合格	90 ~ 100	S	4
	80 ~ 89	A	3
	70 ~ 79	B	2
	60 ~ 69	C	1
不合格	0 ~ 59	D	0
	放棄	—	0

※自由科目は、GPA 計算には含まれません。

※ R…認定された科目。GPA 計算には含まれません。

※ 成績証明書には D・— は表記されません。

※ GPA = $\frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{当該科目で得た GPA ポイント}) \text{の合計}}{\text{履修した科目の単位数の合計}}$

※ GPAは小数点第4位を四捨五入した値で、履修中の科目は含めません。

③ 成績通知

前年度末までの成績通知は3月頃に、前期末までの成績通知は後期開始前9月に行います。成績通知の方法、期間はUNIPAにて知らせます。

9 研究指導実施体制

① 指導体制

- (1) 学生の希望に基づき、研究指導教員を専攻が決定します。
- (2) 研究指導教員は、前期終了までに副研究指導教員1名を決定し、効果的な支援のための複数指導体制を整えます。場合によっては、研究指導教員の責任において、指導体制を変更することを可能とします。
- (3) 研究指導教員及び副研究指導教員は、学生に研究計画書を作成させ面談を行い、研究課題の設定を指導・助言します。
- (4) 研究指導教員は、履修科目の選択をはじめ、専門プログラム・専門研究科目など全般について、指導・助言を行います。
- (5) 研究指導教員及び副研究指導教員は、修了に向けて定期的に研究計画書を用いて学生と面談を行い、研究活動の進捗状況を確認し、必要に応じて研究課題、研究方法、研究スケジュール等の見直し・修正を学生に指導・助言します。
- (6) 研究指導教員並びに副研究指導教員は、いずれも所属する専攻の研究指導教員(MO合)の資格を有する者としてします。

② 研究活動

- (1) 指導教員は、研究指導の一環として、必要に応じ国内外の学会等における学生の論文発表等の指導を実施します。
- (2) 指導教員は、本研究科が定める『修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準』に基づき、複数の審査員によって、修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査を行います。

③ 研究指導スケジュール

各専攻における研究指導スケジュールは次ページの通り。

未来科学研究科 研究指導スケジュール

学年	学期	建築学専攻	情報メディア学専攻	ロボット・メカトロニクス学専攻
1年	前期	4月 新入生ガイダンス 履修指導・研究計画の策定	4月 新入生ガイダンス 履修指導・研究計画の策定	4月 新入生ガイダンス 副指導教員の決定 履修指導・研究計画の策定 研究指導教員・副指導教員との面談
		5月	5月	5月
		6月	6月 調査論文発表（5～7月口頭発表）	6月
		7月	7月 論文調査レポート提出	7月
		8月 副指導教員の決定	8月 副指導教員の決定	8月
	後期	9月	9月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副指導教員との面談	9月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副指導教員との面談
		10月	10月	10月
		11月	11月 研究中間発表（10～12月口頭発表）	11月
		12月	12月 論文調査レポート提出	12月
		1月	1月	1月
		2月	2月	第1回中間発表会 2月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副指導教員との面談
		3月	3月	3月
		4月	4月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副指導教員との面談	4月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副指導教員との面談
2年	前期	4月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副指導教員との面談	4月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副指導教員との面談	4月
		5月	5月	5月
		6月	6月	6月
		7月 修士論文中間発表会	7月 関連研究調査レポート提出	7月
		8月	8月	8月
	後期	9月	9月 修士論文中間発表会（口頭発表）	第2回中間発表会 9月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副指導教員との面談
		10月	10月	10月
		11月	11月	11月
		12月 修士設計中間発表会	12月 関連研究調査レポート提出	12月
		1月 修士論文・修士設計予稿提出 修士論文・修士設計提出	1月 修士論文予稿提出 修士論文提出	1月 修士論文予稿提出 修士論文提出
		2月 修士論文・修士設計試問 （主査・副査による査読） 修士論文・修士設計発表会 （専攻独自口頭発表） 修士論文・修士設計発表会 （研究科ポスター発表）	2月 修士論文試問 （主査・副査による査読） 修士論文発表会（専攻独自口頭発表） 修士論文発表会 （研究科ポスター発表）	2月 修士論文試問 （主査・副査による査読） 修士論文発表会 （専攻独自口頭発表） 修士論文発表会 （研究科ポスター発表）
		3月 保存用修士論文提出	3月 保存用修士論文提出	3月 保存用修士論文提出
		4月	4月	4月

※スケジュールは予定であり、変更となる場合があります。詳細は各専攻にて確認してください。

新入生へ
学修案内
FMA
FMI
FMR
履修案内
Webinars UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

10 修了要件

① 修了単位

課程を修了するためには、修士課程に2年以上在学し、自由科目を除き、各専攻が定める次の要件を満たす所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

また、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果（研究成果報告書）の審査をもって修士論文の審査に代えることができます。

在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができます。

【建築学専攻】

以下のプログラムから択一必修とし、入学時に研究指導教員との相談により決める。入学時に決定したプログラムは、在学中変更できない。

(1) 高度専門プログラム（研究コース）・職能教育プログラム（スタジオコース）共通科目 建築技術・知識演習Ⅱ（必修）	2 単位
(2) 高度専門プログラム（研究コース） 上記（1）の共通科目に加えて、 建築学特別研究Ⅰ（必修）	4 単位
建築学特別研究Ⅱ（必修）	4 単位
その他の専門科目	20 単位以上
（※インターンシップV～X、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得 （選択必修）することを含む）	
(3) 職能教育プログラム（スタジオコース） 上記（1）の共通科目に加えて、 建築学特別設計Ⅰ（必修）	2 単位
建築学特別設計Ⅱ（必修）	2 単位
建築学実習Ⅰ（必修）	2 単位
建築学実習Ⅱ（必修）	2 単位
建築学実習Ⅲ（必修）	2 単位
その他の専門科目	18 単位以上
（※インターンシップV～X、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得 （選択必修）することを含む）	

【情報メディア学専攻】

以下のプログラムから択一必修とし、研究指導教員との相談により決める。

(1) 高度専門プログラム・職能教育プログラム共通科目 情報メディア学特別演習ⅠA（必修）	2 単位
情報メディア学特別演習ⅠB（必修）	2 単位
情報メディア学特別演習ⅡA（必修）	2 単位
情報メディア学特別演習ⅡB（必修）	2 単位
情報メディア学特別研究ⅠA（必修）	2 単位
情報メディア学特別研究ⅠB（必修）	2 単位
(2) 高度専門プログラム 上記（1）の共通科目に加えて、 情報メディア学特別研究ⅡA（必修）	2 単位
情報メディア学特別研究ⅡB（必修）	2 単位
その他の専門科目	14 単位以上
(3) 職能教育プログラム 上記（1）の共通科目に加えて、 情報メディア学特別制作A（必修）	2 単位
情報メディア学特別制作B（必修）	2 単位
その他の専門科目	14 単位以上

【ロボット・メカトロニクス学専攻】

(1) ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ（必修）	4単位
(2) ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅱ（必修）	4単位
(3) 特別輪講ⅠA、特別輪講ⅠB、特別輪講ⅡA、特別輪講ⅡB（必修）各1単位	
(4) 専門科目 （情報駆動システム部門、メカトロニクス部門、ロボット・デザイン部門）	8単位以上
(5) 専攻共通科目	2単位以上
(6) 「豊かな教養」科目	2単位以上

② 修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準

修士論文または特定課題の研究成果は、公表されている本研究科の『人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的』に即し、当該研究領域における修士としての確かな基礎学力を有し、独創性、創造性のある研究能力、実践的問題解決能力等を中心に、次の基準に基づき審査されます。

なお、論文審査及び学位授与審査に透明性、客観性を持たせるため、研究成果の発表は、公聴会形式で行うとともに、最終試験として、研究指導教員を含む審査員による口答試問が行われます。

- (1) 当該研究領域において修士としての確かな基礎学力を修得しているか。
- (2) 研究課題の設定が修士として妥当なものであり、研究遂行及び論文作成または論文に代わる作品等の制作にあたっての問題意識が明確であるか。
- (3) 設定した研究課題の研究に際し、適切な研究方法、調査・実験を行い、それに基づく具体的な分析・考察がなされているか。
- (4) 当該研究領域において、独自の価値、新規性、有用性、信頼性を有するものとなっているか。
- (5) 問題点的確かな整理、把握、判断、解決までの実践的問題解決能力が身につけているか。
- (6) 論文または研究成果物の報告書に関しては、記述（本文、図表、文献、引用など）が適切であり、序文・本文・結論までが首尾一貫した論理構成となっているか。

③ 早期修了条件について

「優れた業績をあげた者」については、1年間もしくは1.5年間の在学期間での修了を認めます。以下の条件を充足した学生について早期修了を認めます。希望する場合は、半年前までに研究指導教員に相談してください。

- (1) 1年間終了時、もしくは1.5年間終了時に修了することを希望していること。
- (2) 入学後の1年間もしくは1.5年間で、各専攻が定める要件を満たす所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査及び最終試験に合格すること。

- (3) 修士論文またはこれに代わる研究成果物関連科目の成績評価が「A」以上であること。また、学術論文誌、学会誌等に1編以上の学術論文（査読付）の採録が確定していること。ただし、建築学専攻及び情報メディア学専攻においては、研究成果物を当該分野において公表し、権威ある賞を受けるなど高い評価を得た業績をもって学術論文（査読付）に代えることができます。この場合は、当該専攻主任により、学術論文（査読付）と同等とみなし、それに代えることができると認められる旨の文書提出が必要です。
- (4) 研究指導教員、専攻主任及び研究科委員長が早期修了に相応しいと判断した者。

④ 前期末修了（修了条件を満たさず修了延期になった者対象）

(1) 前期末修了の条件

2年次に合算して12ヶ月以上在学（休学期間は在学期間に含まない）した者を対象に前期末修了判定を実施します。判定時に休学中の者は対象としません。修了所要単位数など所定の修了条件を満たした時は、前期末修了（9月10日付）となります。

（所定の修了条件）

修了条件は入学した年度に学生に提示している修了条件を適用する。

(2) 前期末修了のための専門研究部門科目及びそれに類する科目の取扱い

本人からの申し出があり、かつ専攻主任・担当教員が許可する場合は、必要となる専門研究部門科目及びそれに類する科目の履修が可能です。

ただし、専門研究部門科目及びそれに類する科目以外に未修得の必修科目がある場合は、未修得科目の開講期で履修することとし、本取扱いの対象外となります。

専門研究部門科目に類する科目は以下の科目です。

・ 建築学専攻：「建築技術知識演習Ⅱ」

※職能教育プログラム履修者は、上記以外に「建築学実習Ⅰ」「建築学実習Ⅱ」「建築学実習Ⅲ」

履修登録については東京千住キャンパス事務部（教務担当）へ問い合わせてください。

11 学 位

未来科学研究科を修了した者については、大学院学則、本学学位規程の定めるところにより、修士の学位が授与されます。

本研究科が授与できる学位の種類及びそれに付記する専攻分野は次のとおりです。

修士課程

建築学専攻	修士（工学）
情報メディア学専攻	修士（工学）
ロボット・メカトロニクス学専攻	修士（工学）

12 修士論文等の取扱い

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出及び審査手順については「東京電機大学学位規程」(後掲)及びそれに基づく手順内規等があるので、未来科学研究科委員長、研究指導教員等の指示に従ってください。

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出スケジュール等については、修了年次にUNIPA等で確認してください。

① 修士論文

論文作成上の注意事項

- (1) 原稿はA4判とし、Word等で作成します。
- (2) 1ページ目は、表紙とします。「修士論文表紙見本」を参照し、作成してください。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右2センチの余白をとります。

論文予稿の提出(参考:平成30年度の場合 平成31年1月15日(火)～17日(木)まで)

- ① 原稿はA4判4枚とし、紙媒体で提出します。(提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入してください。)
- ② レイアウトについては「修士論文予稿見本」を参照してください。
詳細は修了年次生にUNIPAで案内をします。
※予稿は、専攻毎に製本して修士論文及び研究成果発表会前に配布します。

論文の提出(審査用)(参考:平成30年度の場合 平成31年1月26日(土)まで)

- ① 研究指導教員、審査員に1部ずつ直接提出してください。
- ② 表紙は「修士論文表紙見本」を参照してください。

論文の提出(大学保存用)(参考:平成30年度の場合 平成31年2月28日(木)まで)

最終版1部をPDFファイルに変換し、提出してください。

詳細は修了年次生にUNIPAで案内をします。

※CD-ROM化して本学図書館で永久保存されます。

論文審査

論文(審査用)提出後、研究指導教員、審査員による論文審査(通常口頭又は文書)が行われます。試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けてください。

修士論文及び研究成果発表会(参考:平成30年度の場合 平成31年2月8日(金)予定)

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は1月より準備を開始してください。

発表方法等は、1月初旬にUNIPAにて修了年次生へ詳細を連絡します。

② 修士論文に代わる研究成果

研究成果報告書作成上の注意事項

研究成果物や研究成果報告書の提出形態は、研究テーマごとに異なりますので、研究指導教員の指示に従ってください。

なお、研究成果報告書作成に係わる注意事項は、次のとおりとなります。

- (1) 原稿はA4判とし、Word等で作成します。
- (2) 1ページ目は、表紙とします。「研究成果報告書表紙見本」を参照し、作成してください。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右2センチの余白をとります。

研究成果報告書予稿の提出(参考:平成30年度の場合 平成31年1月15日(火)～17日(木)まで)

- ① 原稿はA4判4枚とし、紙媒体で提出します。(提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入してください。)
- ② レイアウトについては「研究成果報告書予稿見本」を参照してください。
詳細は修了年次生へUNIPAで案内します。
※予稿は、専攻ごとに製本して修士論文及び研究成果発表会前に配布します。

研究成果報告書の提出(審査用)(参考:平成30年度の場合 平成31年1月26日(土)まで)

- ① 研究指導教員、審査員に1部ずつ直接提出してください。
- ② 表紙は「研究成果報告書表紙見本」を参照してください。

研究成果報告書の提出(大学保存用)(参考:平成30年度の場合 平成31年2月28日(木)まで)

最終版1部をPDFファイルに変換し、提出してください。

詳細は修了年次生にUNIPAで案内します。

※CD-ROM化して本学図書館で永久保存されます。

研究成果審査

研究成果報告書(審査用)提出後、研究指導教員、審査員による審査(通常、口頭または文書)が行われます。

試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けてください。

修士論文及び研究成果発表会(参考:平成30年度の場合 平成31年2月8日(金)予定)

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は1月より準備を開始してください。

発表方法等は、UNIPAにて1月初旬に発表者へ連絡します。

【修士論文予稿見本】
【研究成果報告書予稿見本】

論 文 題 目
 (英 文 名)

学籍番号 氏名
 研究指導教員 教授 氏名

本 文

【修士論文表紙見本】
【研究成果報告書表紙見本】

修 士 論 文 ※
 論 文 題 目
 (英 文 名)

東京電機大学大学院未来科学研究科
 修士課程○○○専攻
 学籍番号 氏名
 研究指導教員 教授 ○○ ○○

※研究成果報告書の場合は、「修士論文」を「研究成果報告書」としてください。

13 教育職員免許状

① 取得することのできる教育職員免許状

教育職員免許状には学部卒業を基礎資格とする「1種免許状」と大学院修士課程を基礎資格とする「専修免許状」があります。本研究科修士課程の専攻を修了することにより次の免許教科の専修免許を取得することができます。

専攻	取得できる免許状の種類及び教科
建築学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」
情報メディア学専攻	高等学校教諭専修免許状「情報」
ロボット・メカトロニクス学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」

② 専修免許状取得に必要な資格・条件等

次の2つの条件を満たさなくてはなりません。

- (1) 修士課程修了者または修士課程に1年以上在学し修士課程修了見込みの資格を有する者。
- (2) すでに、同一教科の「高等学校教諭1種免許状」を取得しているか、または免許状を取得してはいるが取得に必要な単位を取得済みであること。
高等学校教諭1種免許状については、学部の教職課程要覧を参照してください。
※1種免許状に必要な単位を取得していない場合は以下の⑤を参照

③ 専修免許状取得に必要な単位

それぞれの免許教科に係わる自専攻科目の単位が24単位以上必要です。

どの授業科目が教科科目の単位として認定されるかは次によります。

- (1) 「工業」の専修免許取得に必要な単位
建築学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「工業」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「工業」を取得するために必要な24単位の中に算入されます。
- (2) 「情報」の専修免許取得に必要な単位
情報メディア学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「情報」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「情報」を取得するために必要な24単位の中に算入されます。

④ 免許状申請手続

- (1) 一括申請（修士課程修了時に専修免許状を取得）

大学で免許取得希望者の手続きを一括して東京都教育委員会に申請し、修了式の当日に各自へ教育職員免許状を交付します。手続き等の詳細については、UNIPAで配信される掲示の指示に従ってください。

(2) 個人申請

修士課程修了後に個人で教育職員免許状を取得することもできます。住所地の都道府県教育委員会に問い合わせ、必要な手続きを行ってください。

⑤ **学部で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者、又は学部で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していても免許状をもっていない者**

学段落階で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者であっても、修士課程で教育職員免許状を取得する道があります。いろいろなケースがありますので、学年始めに必ず東京千住キャンパス事務部（教務担当）窓口にて個別に相談してください。

また、学部在学中に適用となっていた免許法が何らかの改正等が変わることがあります。その場合は取得しなければならない科目が増えたりすることもありますので注意してください。手続き等の詳細については、UNIPAで配信される掲示の指示に従ってください。

14 一級建築士受験資格要件（実務経験）

実務要件に関連する科目は下表の「①インターンシップ科目」、「②インターンシップ関連演習科目」、「③インターンシップ関連講義科目」に分類されます。①と②については、「設計・計画・意匠コース」、「構造コース」、「設備コース」の分野別に業務（実務）・演習の内容が変わります。また③については分野別に取得科目が決められています。

各コース（分野）を統一して取得する必要があり、コース（分野）を横断した①～③の単位取得は、一級建築士の受験資格としては認定されないので注意する必要があります。

なお、本要件は修了要件ではないため、別途確認が必要です。

実務要件年数別単位取得及び在学期間の条件（制限）	
実務要件 2年	① 14 単位以上、② 8 単位以下、③ 8 単位以下の条件で、①～③の合計 30 単位以上修得。在学 2 年以上。
実務要件 1年	① 4 単位以上、② 8 単位以下、③ 8 単位以下の条件で、①～③の合計 15 単位以上修得。在学 1 年以上。

実務要件に関連する科目		※（ ）内は単位数
①の科目	<学外インターンシップ> インターンシップV (2)、インターンシップVI (2)、インターンシップVII (4)、 インターンシップVIII (4)、インターンシップIX (4)、インターンシップX (4) <学内インターンシップ> 建築学実習 I (2)、建築学実習 II (2)、建築学実習 III (2)、建築学実習 IV (2)、建築設計国際実習 (2) ※スタジオコース履修者は「建築学実習 I～III」が必修。また「建築学実習 IV」は履修できません ※研究コース履修者は「建築学実習 I～IV」を履修できます ※「建築設計国際実習」は「設計・計画・意匠コース」にのみ適用します	
②の科目	建築技術・知識演習 I (2)、建築技術・知識演習 III (2) ※「建築技術・知識演習 I と III」は選択科目 建築技術・知識演習 II (必 2) ※「建築技術・知識演習 II」はプログラムを問わず必修科目。在学中に二級建築士を取得した場合は単位を認定します	
③の科目	設計・計画・意匠コース (7 科目)	都市デザイン論 (2)、建築形態論 (2)、建築空間デザイン論 (2)、近代建築論 (2)、地域施設計画論 (2)、建築環境心理生理 (2)、建築生産論 (2)
	構造コース (9 科目)	安全建築都市システム論 (2)、建築構造設計論 (2)、構造デザイン認識論 (2)、建築鋼構造論 (2)、建築生産論 (2)、建築ハイブリッド構造論 (2)、コンピューターデザイン論 (2)、コンピューターによる骨組解析論 (2)、建築防災工学論 (2)
	設備コース (5 科目)	建築空間デザイン論 (2)、建築環境形成技術論 (2)、建築環境形成論 (2)、建築環境心理生理 (2)、安全建築都市システム論 (2)、 ※スタジオコース履修者は原則設備分野を選択することはできません

(1) 実務2年を目指す場合の履修例

<研究コースの例>

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + 建築学実習Ⅱ(2) + 建築学実習Ⅲ(2) + 建築学実習Ⅳ(2) + インターンシップⅦ(4) + X(4) = **16単位**

②インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) + 建築技術・知識演習Ⅲ(2) = **6単位**

③インターンシップ関連講義科目

・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) + 近代建築論(2) = **8単位**

・構造コース：安全建築都市システム論(2) + 建築構造設計論(2) + 構造デザイン認識論(2) + 建築鋼構造論(2) = **8単位**

・設備コース：建築空間デザイン論(2) + 建築環境形成技術論(2) + 建築環境形成論(2) + 建築環境心理生理(2) = **8単位**

① 16単位 + ② 6単位 + ③ 8単位 = 30単位 (>=30単位)

<スタジオコースの例>

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + 建築学実習Ⅱ(2) + 建築学実習Ⅲ(2) + インターンシップⅤ(2) + Ⅶ(4) + Ⅷ(4) = **16単位**

②インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) + 建築技術・知識演習Ⅲ(2) = **6単位**

③インターンシップ関連講義科目

・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) + 近代建築論(2) = **8単位**

・構造コース：安全建築都市システム論(2) + 建築構造設計論(2) + 構造デザイン認識論(2) + 建築鋼構造論(2) = **8単位**

* 職能教育プログラムは設備分野を選択することはできません。

① 16単位 + ② 6単位 + ③ 8単位 = 30単位 (>=30単位)

(2) 実務1年を目指す場合の履修例

<研究コースの例>

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + インターンシップⅤ(2) = **4単位**

②インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) = **4単位**

③インターンシップ関連講義科目

- ・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) + 近代建築論(2) = 8単位
- ・構造コース：安全建築都市システム論(2) + 建築構造設計論(2) + 構造デザイン認識論(2) + 建築鋼構造論(2) = 8単位
- ・設備コース：建築空間デザイン論(2) + 建築環境形成技術論(2) + 建築環境形成論(2) + 建築環境心理生理(2) = 8単位

① 4単位 + ② 4単位 + ③ 8単位 = 16単位 (> 15単位)

<スタジオコースの例>

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + 建築学実習Ⅱ(2) + 建築学実習Ⅲ(2) = 6単位

②インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) = 4単位

③インターンシップ関連講義科目

- ・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) = 6単位
- ・構造コース：安全建築都市システム論(2) + 構造デザイン認識論(2) + 建築構造設計論(2) = 6単位

* 職能教育プログラムは設備分野を選択することはできません。

① 6単位 + ② 4単位 + ③ 6単位 = 16単位 (> 15単位)

15 先端科学技術研究科博士課程（後期）進学

先端科学技術研究科博士課程（後期）に進学を希望する者は、できるだけ多くの科目を幅広く履修しておくことが望まれます。

なお、被推薦資格等については、先端科学技術研究科博士課程（後期）学内推薦入試募集要項を参照してください。

16 留学・海外語学研修

本学では、海外の協定校等での語学研修や留学プログラムに参加することを、推奨しています。3週間程度の語学研修から1年未満の留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等、よく検討の上、計画を立ててください。

(1) 留学・海外語学研修の種類

①英語短期研修

海外協定校にて実施されている英語短期研修プログラムは以下のとおりです。各大学の語学教師による少人数教育であり、所定の成績を修めれば「科学英語Ⅰ」の単位として認定されます。

1) コロラド大学ボールダー校(米国): 8月に実施(約3週間)、募集は5月頃

②その他の海外研修

単位の認定はありませんが、上記に加えて以下の語学研修等を実施しています。

(いずれも主に学部生を対象としていますが、応募者数等により大学院生の派遣も検討しますので、国際センターに問い合わせをしてください)

1) 韓国語研修: 韓国の協定校等にて、8月に実施(約3週間)、募集は5月頃

2) 中国語研修: 中原大学(台湾)にて、3月に実施(約3週間)、募集は11月頃

③協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要望については個別に対応していますので、国際センターに問い合わせをしてください。

④認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

※本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。

留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があり、事前の許可を受けずに渡航したり、相手先大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないのでご注意ください。

(2) 留学・海外語学研修への参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

①海外語学短期研修

これまでに実施した語学研修の募集要項や参加した学生の報告を国際センターで閲覧できますので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

②留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意してください。特に英語圏に留学する場合は、IELTS(International English Language Testing System)などの受験とそのスコアが必要です。留学先により英語要

件があり、それを満たすためには通常1年以上の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学科及び東京千住キャンパス事務部の履修指導を受けてください。

(3) 国際センターについて

国際センター（東京千住キャンパス1号館4階 9時～17時）

「国際センター」ではTDUの特色を活かした国際交流の実践に向けて、学生や教職員の人的な交流を進めるために、留学生の日常的な相談相手や、日本人学生の海外留学等、さまざまな支援を行っています。

国際センター千住ラウンジ（東京千住キャンパス1号館4階 10時～17時）

「国際センター千住ラウンジ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活についての相談ができます。また、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。

17 連携大学院協定研究所

本学大学院では、教育研究の充実を図るとともに、学術及び科学技術の発展に寄与することを目的とし、大学院生の研究指導を以下の研究機関と連携して行っています。

研究機関名	客員教員名
国立研究開発法人 理化学研究所	杉岡幸次 高橋俊二 姫野龍太郎 加瀬 究
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	稲垣和之 高辻利三 高鎮西清 渡部行司 辻村 拓
一般財団法人 電力中央研究所	植本弘明 中島 慶人
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	高戸谷 健
国立研究開発法人 海上技術安全研究所	—
国立研究開発法人 情報通信研究機構	山本直克
国立研究開発法人 物質・材料研究機構	高野義彦 北澤 英明
日本放送協会放送技術研究所	菊池 宏
独立行政法人 労働者健康安全機構	佐々木哲也 本田 尚 山際 謙 山口 篤 太志
日本電信電話株式会社 NTT 物性科学基礎研究所	石澤 淳

18 履修証明プログラム

本学では、文部科学省の平成26年度「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」に「国際化サイバーセキュリティ学特別コース」の設立を申請し、採択されました。本コースは、産業界を先導するサイバーセキュリティの専門家の養成を目的とした履修証明プログラムであり、社会人等学外から受講者を募集し、当該コース修了者に、履修証明書を交付することとしています。

平成27年度より、履修証明プログラムとして、本コースの以下の7科目を、未来科学研究科情報メディア学専攻に設置しています。

これらの科目は、在学生も履修することが可能で他専攻履修・他研究科履修にも対応しています。

なお、詳細は、東京千住キャンパス事務部（教務担当）窓口で問い合わせてください。

対象科目

- 「サイバーセキュリティ基盤Ⅰ」
- 「サイバーセキュリティ基盤Ⅱ」（自由科目）
- 「サイバーディフェンス実践演習」（自由科目）
- 「セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法」
- 「デジタル・フォレンジック」
- 「情報セキュリティマネジメントとガバナンス」（自由科目）
- 「セキュアシステム設計・開発」（自由科目）